



第 36 号  
 編集発行／碧南市  
 哲学たいけん村  
 無我苑  
 所在地／碧南市坂口町 3-100  
 〒447-0087：TEL. 0566-41-8522  
 : FAX. 0566-41-7761

# 梅原猛名誉村长特別講演会 演題「親鸞の謎」

平成二十六年十月二十五日に碧南市芸術文化ホールにおいて、哲学者で、哲学たいけん村無我苑名誉村长の梅原猛先生による特別講演会を開催しました。特別講演会の詳細については、以下の要約をご覧ください。



## 一、親鸞と私

私は、昭和十二年に浄土宗知恩院派が設立した名古屋の東海中学に入学した。私はトヨタ自動車の技術の基礎を築いた梅原半二の息子であり、父・半二と同じく数学が得意であった。ところが中学三年のとき、川端康成の『十六歳の日記』を読み、突如として文学青年に転向した。人生は数学よりも難解であり、かつ興味深いと思ったからである。そのころ、宗

教に関心をもち、『歎異抄』を読んだ記憶がある。京都大学文学部哲学科に入り、親鸞の名著『教行信証』を耽読した。そして以後、『歎異抄』の注釈書を二度にわたり出版した。

このように親鸞について七十年にわたって研究してきたが、親鸞の人生についてどうしても解けない謎があった。私は親鸞の死の歳である九十歳になり、ようやく親鸞の人生の謎が解けたのである。

## 二、四つの謎

### ①親鸞はなぜ出家したか

親鸞は中級貴族である日野氏の生まれであるが、四歳のときに父を亡くし、八歳のときに母を亡くし、出家した。また親鸞の兄弟全員が出家している。これは貴族としては異例のことである。しかも不思議なことに父・有範は、実は生きていたのである。

### ②親鸞はなぜ法然の弟子となったのか

親鸞は権力者、九条兼実の同母弟である慈円の弟子となった。当時の貴族の望みは、あるいは官僚として、あるいは僧として出世することであった。慈円の弟子、親鸞も出世コースに乗っていたことは確

実である。しかるに、叡山で暮らすこと二十年、二十九歳のとき、親鸞は乞食僧といつてよい法然の弟子となった。完全に出世コースから外れたわけであるが、その理由は何か。

### ③親鸞はなぜ結婚したのか

親鸞は念仏の教えを説く法然を生涯の師としたが、法然と親鸞の人生は異なる。法然は一生、女性に触れない清僧であったのに対し、親鸞は妻帯した。

### ④親鸞の悪の自覚の異常さ

親鸞には、自分が、父を殺したアジャセ王と同じような悪人であるという自覚がある。これは異常なことであり、このことは『教行信証』で詳しく語られる。

この四つが私にとって長い間、親鸞についての謎であったが、近年、それらの謎を解く鍵を見つけた。

## 三、謎を解く鍵

一つは、親鸞の玄孫である存覚が書いた『親鸞聖人正明伝』である。『正明伝』はこれまで偽書とされてきた。しかし十五年ほど前、佐々木正氏がその著『親鸞

始記』において、『正明伝』は存覚の著書に間違いないと論じた。私は数年前、『親鸞始記』を読み、『正明伝』を何十回と読み返し、それは存覚の著書に間違いないと考えた。『正明伝』にもとづけば、親鸞の謎のいくつかが解けるのである。

もう一つは、西山深草すなわち吉良潤氏の著書『親鸞は源頼朝の甥』の説である。親鸞の母は源氏の有力者の娘であるという説は以前からあったが、吉良氏は、その有力者とは源義朝であると断定した。この大胆な推理は十分説得力があると思う。

この二つの鍵でもって親鸞の人生を考えれば、謎はほぼ解明されると思う。

①親鸞の出家の謎について

親鸞が源頼朝の甥、すなわち源義朝の孫であるとすれば、親鸞の兄弟の出家の謎が解ける。親鸞が僧になったのはちょうど「鹿ヶ谷の変」のときであり、平家が血眼になって源氏の血をうけた人間を探していたときであると思われる。

②親鸞が法然に入門した謎について

『正明伝』によれば、親鸞は十九歳のときに聖徳太子から「おまえの人生はあと十年余りだ」という第一の夢告を受けた。そして二十九歳のときに「法然のとこへへ行け」という第二の夢告を受けた。

そして『正明伝』は、親鸞が二十九歳のときに起こった事件について語る。それは宮廷に入りしなければならぬ叡山僧に起こった事件である。親鸞は、そのように生命をも危うくする政治的事件に

巻き込まれる叡山僧の立場に強い悪感を覚えた。

③親鸞の結婚の謎について

『正明伝』には、第三の夢告として、親鸞が六角堂で受けた結婚の夢告が語られている。この夢告は、九条兼実の要請、法然の命令によって現実になる。九条兼実の娘、玉日と親鸞との結婚である。この結婚を祝す像として、喜ぶ表情の兼実と親鸞と玉日の三体のみごとな像が東京都杉並区の真教寺に現存する。これによって、法然の浄土宗とは違う肉食妻帯を認める浄土真宗という新しい仏教が成立した。それは、仏教の根強い伝統である女性差別を撤廃し、在家の男性及び女性を救済する新しい仏教であった。

私は、大乘仏教の成立が第一の仏教革命であったとすれば、この肉食妻帯を認める親鸞の宗教の成立は第二の宗教革命であったと思う。

④親鸞の異常なまでに強い悪の自覚の謎について

親鸞は父を殺し、母を幽閉したアジャセ王を我が身の如く感じていた。これは『教行信証』の中心的学説といえる。なぜ親鸞はこのような親殺しにこだわったのか。もし親鸞が源義朝の孫であるとすれば、この謎は解ける。

保元の乱後、義朝は父・為義を殺した。ここで、殺人がまったく起こらない平安時代が終わわり、殺人が横行する中世という時代が興ったのである。このような殺人時代の宗教として、殺人者をも救済す

る親鸞の浄土真宗があつたのかもしれない。

四、親鸞の思想

親鸞がもつとも重要な思想としたのはやはり「二種廻向」の思想であると思う。「二種廻向」とは、念仏を唱えれば阿弥陀仏のおかげで人は極楽浄土に往生することができるばかりか、阿弥陀仏のおかげでまたこの世に還ることができるとするものである。なぜなら、仏教は自利利他の教えであるので、極楽浄土へ行つた人間は永遠にそこにとどまることはできず、この世に悩める人間がいるかぎり、悩める人を救うために、阿弥陀仏は人間を極楽浄土から五つの門を通つてこの世に還す。

これはまさに生まれ変わりの思想である。法然は、一度目は釈迦が説く「大無量寿経」の聴衆の一人としてインドに生まれ、二度目は浄土念仏の教えを広めた善導として中国に生まれ、三度目は口称念仏の創始者として日本に生まれたと自ら語る。『正明伝』には、親鸞は道綽の生まれ変わりと論じられる。このような生まれ変わりと論じられる。このような生まれ変わりの考え方、これは、遺伝子の生かすから死へ、死から生へという運動を意味するように思われる。

そしてそのような生まれ変わりを信じるものは「等正覚」、弥勒に等しい人間といわれる。私は、このような思想は現代においても大いに意味をもつと思う。

# 本の情報

●新潮社

## 親鸞「四つの謎」を解く

梅原 猛著



親鸞像の定説を覆す、

長編力作！

- ・タブーを破り妻帯したのはなぜか？
- ・「悪人正機説」の悪の自覚はいつ生まれたのか？
- ・晩年に到つた悟り「等正覚」とは？
- ・そして秘されたもう一人の妻、玉日の伝承とは？

### 瞑想回廊企画展示

瞑想回廊企画展示は、哲学たいけん村のコンセプトに則り、訪れた人の「視覚」と「感性」に訴えかける美術展として、開村以来毎年開催しています。平成二十六年度は、十月三日から十一月三十日にかけて第四十回企画展示「どうしようも無く 馬鹿馬鹿しい絵 内藤圭介回顧展 まだ生きてますが」を開催しました。



内藤氏は高浜市在住の現代美術作家です。過去から現在に至るまでの作品約四十点を展示しました。デッサンや写真等をパソコンに取り込み画像処理をし、プリンターで出力をするデジタル版画の作品も展示していただきました。

### 伊藤証信 梅原猛名誉村長 常設展示

哲学たいけん村無我苑にゆかりのある伊藤証信と梅原猛名誉村長とを紹介する常設展示。平成二十六年度はそれぞれ次の展示を行いました。

#### 伊藤証信常設展示

遺品の紹介を通じて、伊藤証信の生涯を順に紹介しています。今回、中野無我苑時代から西端竜灯団までの時代を紹介しました。

#### 梅原猛名誉村長常設展示

梅原猛名誉村長の幼少時代から京都大学哲学科時代までを紹介しました。



### 「長月の会」

▼出演▲  
エレクトーン奏者 稲垣智保氏  
ソプラノ歌手 長屋弘子氏



平成二十六年九月二十七日、哲学たいけん村無我苑瞑想回廊中庭にて、「長月の会」を開催しました。今回は、エレクトーン奏者の稲垣智保氏、ソプラノ歌手の長屋弘子氏をお迎えして、「小さい秋みつけた」、「荒城の月」などの日本の叙情歌から、無我苑の竹林にびったりの稲垣氏のオリジナル曲「かぐや」を演奏していただきました。

当日は天候にも恵まれ、夜空には三日月が出て、とても幻想的なコンサートでした。

### 新春めでたづくし公演

▼出演▲  
弾き語り一座「座・羽衣」

平成二十七年の新春を祝い、一月四日に哲学たいけん村無我苑研修道場にて「新春めでたづくし公演」を午前・午後の二回開催しました。今回は、弾き語り一座「座・羽衣」さんをお招きし、薩摩琵琶や三味線の演奏、歌語りや南京玉すだれといった演目をご披露いただき、華々しく新年の無我苑開きを開催することができました。

新春の特別なお菓子「花びら餅」とセツトにした観覧チケット百二十枚もお陰様で完売しました。



平成二十六年  
前期・後期哲学講座の記録

前期メインテーマ「哲学の基本」	前期 講師名 (敬称略)
①「思う」 ②「わかる」 ③「知る」	久野 昭 (無我苑顧問)
後期メインテーマ「旅の思想」	後期 講師名 (敬称略)
①「人生という旅」 ②芭蕉の「奥の細道」について ③ヨーロッパの風景の体験 (ラントグレーベ) について ④「心の旅」	①、④久野 昭 (無我苑顧問) ②、③小川 侃 (京都大学名誉教授)



涛々庵茶会・三曲定期演奏

お知らせ

涛々庵茶会は無我苑の市民茶室涛々庵(とうとうあん)を使用した市民茶会です。毎月席主によってそれぞれに創意工夫がなされ、華やかな茶会となっております。また、茶会に華を添える箏、三弦、尺八による三曲の定期演奏も研修道場安吾館にて行っています。

平成二十七年の涛々庵茶会は、毎月第四日曜日(十二月のみ第三日曜日)に開催します。料金は一服四百円、時間は各日とも十時から十五時まで(立礼茶席は十六時まで)です。三曲の演奏はお茶会にあわせ随時観覧無料で行っています。お茶会の作法についてご存知ない方もお気軽にご参加いただけます。また、三曲の演奏はお茶会に参加しない方もお聞きいただくことができます。是非、一度涛々庵茶会の雰囲気をお楽しみください。

月 日	涛々庵茶会		三曲演奏 出演団体
	席主	流派	
4月26日	碧南市文化協会茶道部		鈴木祥子社中
5月24日	神谷 美枝子 (宗美)	表千家	尺八 川村柔山グループ
6月28日	澤田 教子 (宗教)	表千家	絲音の会
7月26日	永井いく子 (宗郁)	裏千家	若草会
8月23日	藤原知香子 (宗知)	裏千家	
9月27日	小林ミサ子 (宗実)	裏千家	鈴木祥子社中
10月25日	杉浦 時子 (宗時)	宗徧流	絲音の会
11月22日	小沢わさ子 (宗和)	松尾流	山本加代子社中
12月20日	杉浦みどり (宗翠)	裏千家	鈴木祥子社中
平成28年 1月24日	神谷 美枝子 (宗美)	表千家	絲音の会
2月28日	小島 和美 (宗美)	裏千家	若草会
3月27日	杉浦 伸子 (宗伸)	裏千家	鈴木祥子社中